



アイテム しごとと探検隊

19th

アイテムしごと探検隊は「しごとの素晴らしさを伝えたい」という
私たちの思いから始まりました。
実際の職場に足を運び、そこで働く人の話を聞くことを通して、
しごとの大切さ、素晴らしさに出会ったり、
発見できることを願っています。

今回の訪問先 竹田印刷株式会社

●隊員紹介(あいうえお順)●

浅野くん (5年生) 伊東くん (5年生) 今西くん (6年生) 大内くん (5年生)
大野くん (6年生) 岡島くん (5年生) 小林さん (5年生) 斉藤さん (5年生)
塚本さん (6年生) 仲田くん (6年生) 橋本さん (5年生) 福本さん (5年生)
外さん (6年生) 三井さん (5年生) 箭野くん (5年生) 山本さん (5年生)



今回の探検先は…

**竹田印刷株式会社
関西事業部**

創業大正13年、80年以上の歴史を持つ総合印刷会社。名古屋に本社を構え、中部地域を中心に関西・関東、中国にも展開。培った印刷技術を基にデジタル情報技術、ソリューション・ビジネスなど、商業印刷の枠を超えた新しい価値を提案し続けている。

●探検実施日:2011年8月4日(木)

**身近だけど知らない
印刷物ができるまで**

8月4日、16人の探検隊を乗せたバスが訪れたのは大阪府八尾市にある竹田印刷株式会社関西事業部。ここに求人フリーペーパー「ジョブアイテム」をはじめ様々な印刷物を、高速運転で大量に印刷する工場がある。

最初に印刷部の井上さんが印刷の流れを教えてくださいました。「制作」「出力・刷版(印刷時に使う版)」「印刷」の工程を経て印刷物ができるという。



**出力・刷版の
高度なテクノロジーを体感**

できあがったDTPデータは通信ネットワークでCTP室へ送られる。印刷部の大村さんが出力・刷版について説明してくれました。



「ここではDTPデータを黄・赤・青・墨にデータ変換し、CTP出力機でアルミ製の版にデータを直接焼き付け、4つの刷版を作ります」。

CTP出力機に版をセットすると、ローラーの上を版が流れ出し、子どもたちの視線が注がれる。大型出力機の中を潜り抜け、データが焼き付いた高精度の刷版が出てきた。ちなみにこのアルミ製の版は使用後リサイクルされるとのこと。高度なテクノロジーは環境にもやさしくできている。

**インクのおいと運転音
迫力の印刷工場を見学**

約300坪の工場敷地内に入ると、最初に2トンのインクが入った4つのドラムを見学。「インクはどれぐらい使われるの?」と質問が飛び出す。年間使用量は約600トン、とくに黄と墨の使用頻度が高いという。

工場内には3台の4色輪転印刷機が並び、輪転機で回るロール紙は子どもたちの背丈ほど大きい。轟音と共に輪転機が動き出すと、ベルトに乗った紙が、機械の間を縫うよ

**カタログづくりを体験!
協力して働く印刷の仕事を学ぶ。**

**ルーベを通して知る
印刷物の驚きの世界**

「カラー印刷に使われるインクの色はいくつあるか知っていますか?」と井上さんが質問する。「黄・赤・青・墨の4色ですべての色が再現されているんですよ」。



目の前に4色の版が並べられ、子どもたちは実際の印刷物と4つの版を見比べる。わずかに驚きながらも納得したようだ。

続いて小型のルーベで印刷面を覗くと、色がべったり塗られているように見えるが、実際は4色の小さな点からできていることが分かる。その小さな点は網点と呼ばれ、色が濃くなるほど大きくなる。ルーベを通して見る印刷物には驚きと発見がいっぱいだ。

DTPデータを制作しよう

次は制作体験。メディア制作部の矢野さんが「みんながモデルになって登場するファッションカタログを作ってみよう」と提案する。

うに走る。高速運転で両面印刷された紙は、オートメーションで裁断・折り加工・結束される。その束を紙積みロボットが1つずつ掴み、パレットに整然と積み上げていく。インクのおいとお大きな運転音に包まれ、工場内で働く人の姿に、子どもたちは仕事の大変さを感じ取ったようだ。



協力して働く大切さを知る

最後は、各部署で働くスタッフが勢ぞろいしての質問タイムだ。子どもたちの手が次々に挙がる。

「仕事のやりがいとは?」の質問に印刷ひと筋30年の市川さんが答えてくれる。「印刷の

子どもたちは、カタログのモデルを見ながらポーズを練習。照れながらも、一人ずつの撮影が進み、最後に集合写真を撮り終了。撮影した画像はさっそく次の工程に移る。熟練のオペレーターがパソコンを使って画像を手際よく切り抜いていくと、「速い!」「きれい!」の歓声上がる。

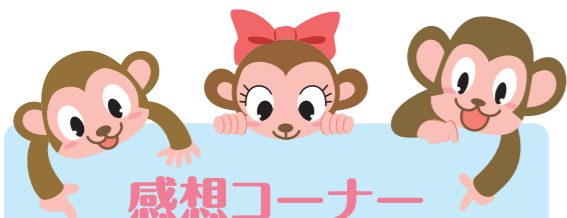
次はパソコンで原稿づくりに挑戦だ。画像をモニター上の原稿に貼り付け、名前や学校名などを入力し、探検隊オリジナル・ファッションカタログのDTPデータが完成した。



多くは機械で行いますが、色合わせだけは人の力が頼り。目で見たままの本物の色を4色のインクで作りに上げるのは難しいですが、納得のゆくい色が出来た時はうれしかったです。

また「仕事で気をつけていることは?」の質問には各部署のスタッフが「文字を打ち間違えない・データを誤って削除しない・印刷機に巻き込まれる事故を起こさない」と答えてくれた。

アイテムに戻った子どもたちは、感想や意見を話し合った。一つの印刷物はたくさんの人が関わりながら作られる。印刷の仕事を通して、協力して働くことの大切さを学んだようだ。



感想コーナー

- インクの材料や機械の形や、色々な役割があったり協力しあってできるものだと思います。
- パソコンを使ってデザインするのがとても楽しかった。
- 工場に行った時に、おいと音がすごくて、いつも働いている人はすごいと思いました。

竹田印刷株式会社 関西事業部
トータルソリューション部 貞本 なみ さん



制作から印刷までをワンストップで行えるのが自社で印刷機を構える当社の特徴です。今回は子どもたちの手でカタログを制作するところから、刷りたての実物を手にするところまでを見学・体験していただきました。時間が足りなくなるほど意欲的な子どもたちの姿が今でも記憶に残っています。一つの商品を作るのにも色々な業務があり、みなそれぞれのこだわりと誇りを持って働いているということを、私達印刷会社を通じて、今回の体験で感じていただけたなら嬉しいです。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力をお願い
訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会を一緒に提供していただけませんか?
お問い合わせは「アイテム広報室」まで ☎0120-938-989